

事 項	ぶどう基本品種「ノースレッド」の省力化に向けた整枝剪定法		
ね ら い	「ノースレッド」の省力栽培を検討したところ、一文字両側整枝短梢剪定が果実品質を低下させずに、単位面積当たりの摘梢時間及び剪定時間が短縮でき、労働負荷が軽減できるので参考に供する。		
指 導 参 考 内 容	<p>1 整枝剪定法の比較</p> <p>(1) 摘梢時間は、両側短梢剪定が片側長梢剪定及び両側長梢剪定より62～70%少なかった。</p> <p>(2) 剪定時間は、両側短梢剪定が片側長梢剪定及び両側長梢剪定より40～45%少なかった。</p> <p>(3) 1房重は平成10年では両側整枝が片側整枝に比べ大きく、平成11年では差はなかった。1粒重、糖度及び酸度にはいずれの年も大きな差はなかった。</p> <p>(4) 10a当たりの収量は両側長梢剪定がやや多いものの両側短梢剪定といずれの年も有意差はなかった。</p> <p>2 一文字両側整枝短梢剪定の主な管理</p> <p>(1) 整枝剪定法は、結果母枝の2芽で剪定する両側整枝短梢剪定とする。</p> <p>(2) 結果母枝を欠いた場合は、長梢剪定（5～10芽を残す）をして結果母枝を誘引し、空間を補う。</p> <p>(3) 摘梢は、花穂の着生を確認できる頃（5月中旬）に行い、結果枝は約10cm間隔で主枝両側に交互に配置する。</p> <p>(4) 摘心の1回目は、開花1週間前頃に行い、第1花穂上4葉、副梢は上位2本を残す。2回目は、副梢の展葉枚数が8枚頃に行い、各副梢で6葉を残す。その後は、総葉枚数が22～24枚になるように行う。</p>		
期待される効果	労働負荷が軽減でき、規模拡大が可能となる。		
利用上の注意事項	樹勢が強く1芽目の新梢に花穂を着生しない場合は3芽剪定とする。		
担 当	青森県りんご試験場 県南果樹研究センター 栽培育種部	対 象 地 域	県下全域
発 表 文 献 等	平成9～11年度 落葉果樹、寒冷地果樹試験成績概要集 平成9～11年度 りんご試験場県南果樹研究センター試験成績集		

【根拠となった主要な試験結果】

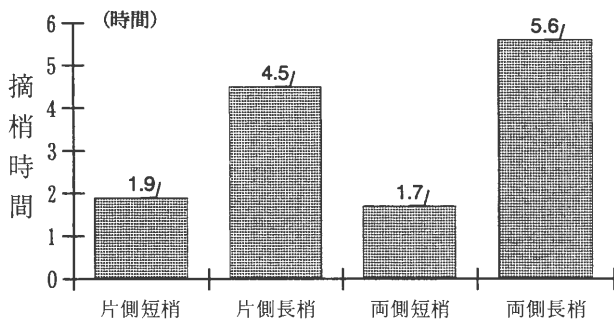


図1 10a当たりの摘梢時間

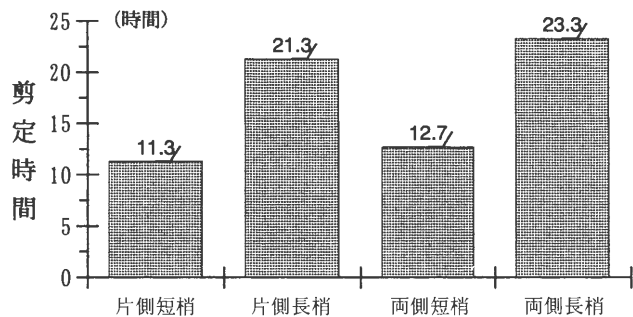


図2 10a当たりの剪定時間

注1) 当センターほ場の6年生ノースレッド(自根)、栽植距離は2.5m×5m(80本/10a)

注2) 片側短梢とは、片側整枝、短梢剪定の略、他も同様

(平成11年 青森りんご試県南果研セ)

表1 ノースレッドの果実品質

(平成10、11年 青森りんご試県南果研セ)

区	年次 項目	1998年(5年生)				1999年(6年生)			
		1房重 (g)	1粒重 (g)	糖度 (%)	酸度 (%)	1房重 (g)	1粒重 (g)	糖度 (%)	酸度 (%)
片側短梢		72.1 c	3.9	18.2	0.65	223.5	4.9	17.2 a	0.45
片側長梢		95.0 bc	3.9	18.2	0.67	231.1	4.9	17.0 ab	0.45
両側短梢		127.9 ab	4.3	18.3	0.61	228.5	5.2	17.0 ab	0.52
両側長梢		134.4 a	4.1	18.2	0.59	219.8	4.8	16.7 b	0.49

注) 1房重は収穫全房の平均、異なる符号間に5%水準で有意差あり(チューキー)、糖度はBrix、酸度は酒石酸換算

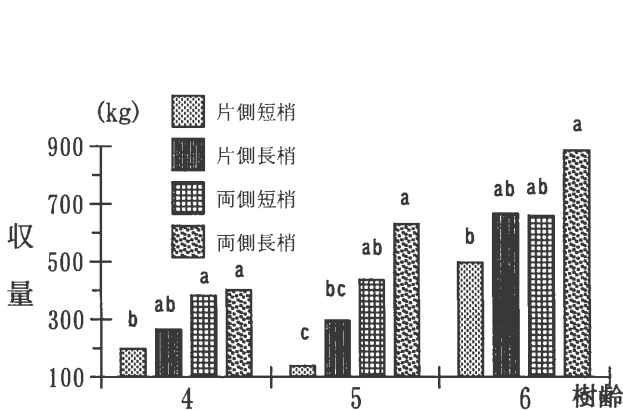


図3 10a当たりの収量

注) 当センターほ場

(平成9~11年 青森りんご試県南果研セ)

表2 実証ほでの1樹当たり剪定重(kg)

区 / 年	1998	1999
短梢	1.6 N.S	1.6 N.S
長梢	1.1	1.1

注) 現地ほ場

(平成10、11年 青森りんご試県南果研セ)

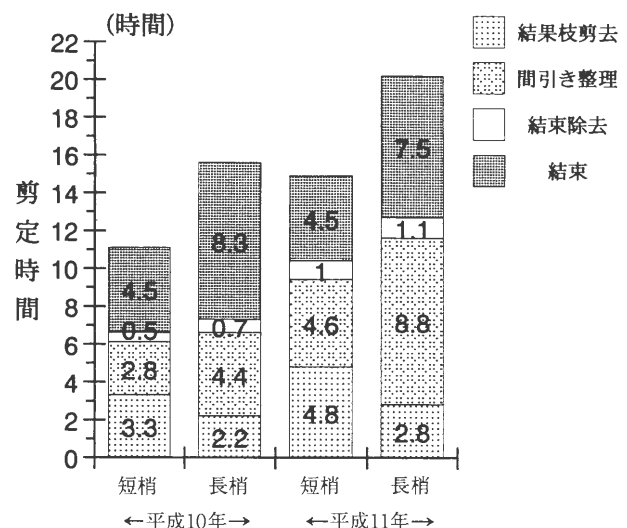


図4 実証ほでの10a当たりの剪定時間

注) 現地ほ場の一文字片側整枝での4、5年生ノースレッド(自根)、栽植距離は2.5m(114本/10a)

(平成10、11年 青森りんご試県南果研セ)